

感染症対策を講じてもなお感染リスクの高い教育活動について【改訂版】

※感染が拡大している地域においては、以下の活動は慎重に行い、特にリスクが高い活動は一時的に控えるなど、適切に対応する。

<p>教科</p>	<p>感染症対策を講じてもなお感染リスクが高い活動 緊急事態宣言時は原則として行わない。 (学校の実情による)</p>	<p>地域の感染レベルによらず担当者が留意すべき事項</p>
<p>共通</p>	<p>児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等</p> <p>近距離で一斉に大きな声で話す活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則としてマスクを着用する。 ・「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について、可能な限り避ける。一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また、回数や時間を絞る。 ・できるだけ個人の教材教具を使用し、児童生徒同士の貸し借りはしない。 ・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行う。
<p>理科</p>	<p>児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具を共用する場合は、使用前後に手洗いを行い、使用後は器具等の適切な消毒や手洗いをする。 ・理科室の対面式実験台で学習する場合は、長時間、近距離での活動にならないよう工夫をする。 ・屋外での観察、栽培活動を実施する場合は、マスクを着用し、近距離での会話を避けるようにし、活動終了後には手洗いを行う。 ・演示実験をする際、児童生徒の距離の確保が難しい場合は、ICT機器を使用してモニター画面に映し出したり学習者用端末に配信したりする。また、密を避けるためグループを分けて複数回演示するなど、柔軟に対応する。
<p>音楽</p>	<p>室内で児童生徒が近距離で行う合唱</p> <p>リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則としてマスクを着用する。(飛沫拡散防止のため) ・合唱している児童生徒同士の間隔や、指導者・伴奏者と児童生徒との間隔、発表者と聴いている児童生徒等との間隔は、マスクを着用している場合であっても、前後方向及び左右方向ともにできるだけ2m(最低1m)空ける。立っている児童生徒と座っている児童生徒が混在しないようにする。(立っている児童生徒の飛沫が座っている児童生徒の顔へ付着する飛沫感染のリスクを避けるため) ・連続した練習時間はできる限り短くする。常時換気を原則とし、窓等を対角方向に開け、十分に換気を行う。飛沫感染に留意し、近距離での大声を徹底的に避ける。 ・歌唱時のマスク着用により息苦しくなる、熱中症の危険性が高いなどのケースでは、十分な距離(最低2m)をとってマスクを外して行うことも考えられる。 <p>→地域の感染が拡大している場合、一時的に制限</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・屋外で、十分な距離(最低2m)を確保して、向かい合わずに行う場合には、マスクを着用せずに行うことも考えられる。屋外に準じる程度に十分に換気の行き届いた空間(双方向の窓を全開している場合や、換気設備が整っている場合等)においても、同様とする。
図工美術	児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ個人の教材教具を使用し、児童生徒同士の貸し借りはしない。 ・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行う。 ・鑑賞の活動を行う際、児童生徒間の距離の確保が難しい場合は、ICT 機器を使用してモニター画面に映し出したり学習者用端末に配信したりすることも考えられる。
家庭技家	児童生徒同士が近距離で活動する調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等、器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを徹底する。 ・調理前後は器具等をきれいに洗浄し清潔に保つ。 ・試食の際は、会話を控えるとともに、飛沫を飛ばさないように同方向を向き、間隔を空け、換気を強化する等の対応をする。
体育	児童生徒が密集する運動	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児及び基礎疾患児の場合や、保護者から感染の不安により授業への参加を控えたい旨の相談があった場合等は、授業への参加を強制せずに、児童生徒や保護者の意向を尊重する。 ・可能な限り屋外で実施する。(感染状況にもよる) →気温が高い日などは、熱中症に注意 ・体育館など屋内で実施する必要がある場合は、特に呼気が激しくなるような運動を避ける。 ・学校の体育の授業におけるマスクの着用は必ずしも必要ないが、体育の授業における感染リスクを避けるためには、児童生徒の間隔(最低2m)を十分に確保する。マスクの着用により息苦しくなる、熱中症の危険性が高いなどのケースでは、マスクを外して行うことも考えられる。
	児童生徒が近距離で組み合ったり接触したりする運動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前後における着替えや移動の際や、授業中、教師による指導内容の説明やグループでの話合いの場面、用具の準備や後片付けの時など、児童生徒が運動を行っていない際は、可能な限りマスクを着用する。 ・呼気が激しくならない軽度な運動の際は、マスクを着用することも考えられる。 ・集団で行う活動はなるべく避け、特定の少人数で活動(球技におけるパスやシュートなど)を実施する際は、十分な距離を空けて行う。
その他	縦割り班などの異年齢集団の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃については、黙働を行う。特に清掃後は手洗い、手指消毒等を徹底する。 ・<u>歯磨き等での水道使用は密にならないよう、なるべく間隔を空けたり、時間差で行ったりする。</u> ・異年齢集団の交流については、感染状況を見ながら、長時間、近距離、一斉に大声を出すような活動にならないよう十分留意する。